

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインと其中的漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

## シェーグレン症候群治療指針マニュアル

厚生省特定疾患自己免疫疾患調査研究班（班長：宮坂信之）

厚生省自己免疫疾患調査研究班 平成 8 年 3 月 21 日 第 1 版

### ■1 人参養栄湯

疾患：

シェーグレン症候群（乾燥症状に対する内服薬）

有効性に関する記載ないしその要約：

『（用法・用量）7.5g～9g、分 3、

\*体力低下、疲労、気管支喘息、食欲不振等が適用となっている。』

副作用に関する記載ないしその要約：

『（禁忌、慎重投与、副作用など）著しい胃腸虚弱（慎重投与）、電解質バランスの乱れ、過敏症』

### ■2 麦門冬湯

疾患：

シェーグレン症候群（乾燥症状に対する内服薬）

有効性に関する記載ないしその要約：

『（用法・用量）9g、分 3、

\*体力低下、疲労、気管支喘息、食欲不振等が適用となっている。』

副作用に関する記載ないしその要約：

『（禁忌、慎重投与、副作用など）電解質バランスの乱れ、過敏症』

### ■3 小柴胡湯

疾患:

シェーグレン症候群 (乾燥症状に対する内服薬)

有効性に関する記載ないしその要約:

『 (用法・用量) 6g~7.5g、分 3、

\*体力低下、疲労、気管支喘息、食欲不振等が適用となっている。』

副作用に関する記載ないしその要約:

『 (禁忌、慎重投与、副作用など) 電解質バランスの乱れ、過敏症、肝機能障害』